

令和 8 年度 学校経営計画及び評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門造形高等学校
1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 （1）造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。 ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ、電子黒板、プロジェクタ等を効果的に活用できる環境と学習形態を整え、生徒の実態に即した授業の充実を図る。また、教育アプリ等を活用し、家庭学習・自主的な学習を習慣化させるとともに、授業において「確かな学力」の向上を図る。 イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やＩＣＴを活用した授業の充実を図る。 ウ 造形教科、普通教科ともに、グループワークやプレゼンテーション、相互批評を行う活動を増やし、表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を身に付けさせる。 エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。 ※ＳＴＥＡＭ教育プログラムを踏まえ、実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科横断的教育の実践に努める。関係機関と連携し、特にデザイン分野における課題解決型活動を実践し、「考える力」を育成する。学教診（生徒）で「授業内容に興味・関心」の肯定的回答（Ｒ５ 91%、Ｒ６ 89% Ｒ７ 85%）90%以上にする。 ※「発信力」の育成について、ＩＣＴ機器を活用して、プレゼンテーションできる力を育み、造形表現力とともに特に言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業（教科・科目）で設定する。学教診（生徒）で「授業で考えをまとめ、発表する機会」の肯定的回答（Ｒ５ 98% Ｒ６ 97% Ｒ７ 92%）90%以上を維持する。 2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 （1）美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。 ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 イ 大阪市住之江区を中心として地域連携を促進する。また、芸術を通して自らが社会に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。さらに、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。 ウ 将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実かつ安定した高校生活が送れるよう教育相談体制及び支援体制の充実を図る。 エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者等の大学入学共通テスト受験者に、実技と学習がバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行うとともに、生徒全員の主体的な学びの機会として教育アプリ等の活用を推進する。 ※国公立大学5人程度を含む四年制大学進学者数100人程度を維持する。 ※将来について考えたり、就労につながる志を育てるため、「ようこそ先輩」講演会を継続する。学教診（生徒）で「将来の進路や生き方を考える機会」の肯定的回答（Ｒ５ 96% Ｒ６ 96% Ｒ７ 96%）、「進学や就職など適切な指導」の肯定的回答（Ｒ５ 96% Ｒ６ 96% Ｒ７ 95%）、いずれも90%以上を維持する。 ※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入と継続を促し、活動の充実を図る。「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持する。令和10年度に現在の水準（美術の大阪府代表）を維持する。学教診（生徒）で「高校展や芸文祭などの制作活動を通じた達成感」の肯定的回答（Ｒ５ 93%、Ｒ６ 94% Ｒ７ 91%）90%以上を維持する。 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割 （1）府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たす。 ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、本府だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を担う学校をめざす。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信する。 イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、ＨＰの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信、作品の発表を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校としての取組みの推進に努める。 エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。 ※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくる。また、ＩＣＴを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど、専門造形高校ならではの取組みを推進する。 ※学教診（生徒）で「他校にない特色」の肯定的回答（Ｒ５ 99% Ｒ６ 100% Ｒ７ 99%）95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流の機会」の肯定的回答（Ｒ５ 86% Ｒ６ 88% Ｒ７ 86%）85%以上を維持する。 4 労働安全衛生管理体制の充実と教職員の資質向上 （1）大阪府立学校の「教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づき、働き方改革を進め、安全で健全な職場環境を確立するとともに、教育活動を安定的に継続できる体制を構築する。 ア 安全で健全な職場環境を確立するため、安全衛生委員会を中心とした業務点検・改善を推進するとともに、安定的な教育活動の推進の観点から、将来構想委員会を含む各組織で組織的・継続的な取組みを推進する。 イ 教職員の資質向上・専門性の強化の観点から、研修機会を確保し、学校全体の教育水準を高めるとともに、特に経験の少ない教職員の育成を図る。 ウ 働き方改革の推進の観点から、ＩＣＴ機器を活用した業務の効率化とともに、行事・会議等の精選を継続し、業務のみなおし、標準化・平準化の取組みを進める。また、部活動、補習、学校説明会等について、教育的効果と教職員の負担の両面を考慮し、活動計画・実績をもとに適切な運営体制を整える。 ※学教診（教職員）で「教育全般にわたる評価を行い、次年度に生かす」（Ｒ５ 69% Ｒ６ 85% Ｒ７ 89%）90%以上をめざす。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ、電子黒板、プロジェクタ等を効果的に活用できる環境と学習形態の整備。教育アプリ等の活用。 イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実 ウ 表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を育成する。 エ 造形文化への理解・教員の自己研鑽	(1) ア すべての教科でICT機器を活用した授業を実施し、授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、家庭学習・自主的な学習を習慣化させるために学習アプリ等を活用して、学力の向上を図る。さらに、教員の授業力の向上を図るため、公開授業習慣の実施やICTに関する職員研修に組織的に取り組む。 イ 造形活動に必要な幅広い知識・実技力を身に付けるため、実技指導の充実とともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。そのため、組織的に授業公開を促進し、教科の垣根を超えた授業実践研究の促進と教科横断的教育、課題解決型活動に取り組む。 ウ グループワークやプレゼンテーション、相互批評を行う活動を増やし、表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を育む。 エ 美術館等と連携し、現代の作品、世界の作品、伝統工芸作品に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。 また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。	※数値（％）は肯定的回答の割合（1） ア・（生徒）「授業内容に興味・関心」90％以上[85％] ・1年生の外部テストの結果について、第1回に比べ第2回の到達ゾーンを下げない〔国数英計〕[第一回C2→第二回C2] ・将来構想委員会（学力・進路PT）の継続的開催〔年5回〕 イ・（生徒）「少人数の授業や、関心のある選択授業」90％以上を維持[91％] ・「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用」90％以上を維持[93％] ウ・（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会」90％以上を維持[92％] ・日経STEAMデジタルアート展示発表会への参加 ・3年課題研究のプレゼン発表大会の実施 エ・国内外の作品に触れる機会の設定回数を昨年並みに維持する。〔5回〕 ・小中学校対象教員実技研修、PTA・後援会対象文化講座等の実施（指導技術の向上）	
2 社会の各分野で活躍できる想像力とバイタリティをもった人間の育成	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実	(1) ア・美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 ・キャリア教育に関する講演会等を実施する。	(1) ア・（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会」90％以上を維持[96％] ・（生徒）「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」85％以上をめざす。[82％] ・すみのえアートビートへの参加 ・卒業生による講演会『ようこそ先輩』の実施 ・大学等による出前授業の実施	

府立港南造形高等学校

	イ 地域連携の促進と芸術の発信 人権感覚の醸成 防災教育の推進 ウ 高校生活をより充実させるための目標設定と支援。教育相談体制及び支援体制の充実 エ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持	イ・大阪市住之江区を中心に地域連携を促進する。芸術を通して自らが社会に企画、発信できる力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。 ・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動力を育む。 ・SNSの使い方について、生徒がより深く学ぶ機会を設ける。 ・地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。 ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実した高校生活が送れるようきめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。 ・充実した高校生活送るため、日常生活におけるルール（遅刻・欠席・社会規範等）について考える機会を設ける。 エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。 ・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業など外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。	及び画材業者等による材料に関する講座の実施 イ・(生徒)「部活動や生徒会活動が盛ん」90%以上を維持[92%] ・(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」90%以上を維持[92%] ・(生徒)「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている」90%以上を維持[97%] ウ・(生徒)「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導」90%以上を維持[95%] ・(生徒)「担任の先生以外にも保健室やカウンセリング室等で、相談することができる先生」80%以上を維持 [84%] ・(保護者)「生徒指導の方針に共感」85%以上 [84%] エ・(生徒)「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」90%以上を維持[91%]	
3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割	(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割 ア「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす イ 日本一の専門造形高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実 ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進 エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流	(1) ア「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、専門美術高校の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取組みのより一層の発展を図る。 イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進 エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。	(1) ア・(生徒)「この学校には、他の学校にない特色がある。」100%をめざす[99%] イ・(生徒)「学校の施設や設備には満足」90%以上をめざす[86%] ウ・小中学校教員対象実技研修を実施する（再掲）。 ・全国美術系大学短大合同説明会を府全体に呼びかけ、実施する。 ・港南展を大阪市立美術館で実施し、より多くの府民に鑑賞する機会を設ける。 エ・(生徒)「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会」85%	

府立港南造形高等学校

			以上を維持[86%] ・国際交流・海外研修を実施する。	
4 労働安全衛生管理体制の充実と教職員の資質向上	(1) 働き方改革の推進、安全な職場環境の確立、及び組織的・継続的な教育活動 ア 安全衛生委員会での業務改善と組織的・継続的な教育活動 イ 研修機会の確保及び特に経験の少ない教職員の育成 ウ 業務のみなおしと平準化	ア 安全衛生委員会での業務改善の検討とともに、将来構想委員会等で組織的な教育活動を推進 イ 教職員の研修機会の確保とともに、特に経験の少ない教職員等への育成と支援 ウ ICT機器を活用した業務効率化とともに、行事・会議等の精選の検討により、業務のみなおし、標準化・平準化 ・部活動、補習、学校説明会等について、活動計画・実績をもとに適切な運営体制の整備	ア 対面を含む安全衛生委員会にて業務改善の検討 ・将来構想委員会を、年間をとおして開催[年3回] ・委員会等で行事のみなおしに係る検討[年1回] ・(教職員)「教育全般にわたる評価を行い、次年度に生かす」90%以上[89%] イ・教職員研修の研修機会年4回[4回] ウ・年間の時間外在校等時間が720 時間を超える教育職員をゼロにする。[3人] ・「定時退庁日」を週一回 「ノークラブデー」を平日・週休日各一回、確実に実施 ・部活動顧問の複数配置	